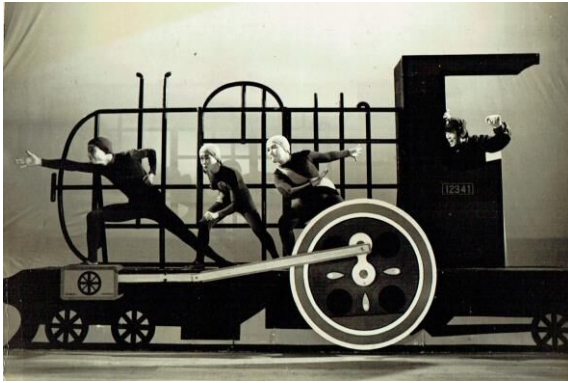


令和5年度 名古屋市芸術賞受賞者の略歴

【 芸術特賞受賞 ^{げきだん}劇団うりんこ（創立50年） 演劇 】



昭和48（1973）年、東海地方で初めて児童劇専門のプロ劇団として劇団うりんこ設立。昭和49（1974）年には小学校公演開始。以降50年にわたり、国内外の芸術家と協働し233作の演劇を制作・上演（令和5（2023）年12月時点）。うりんこ劇場はじめ、全国の劇場や会館・小中高等学校の体育館・地域の公民館などで公演し、年間10万人の観客（令和4（2022）年度）に演劇鑑賞の機会を提供。

また、演劇ワークショップや学芸会支援にも重点的に取り組み、児童生徒の表現力・想像力・コミュニケーション力の育成に貢献。近年は、企業におけるコミュニケーション教育事業や乳幼児と保護者対象のワークショップ、教員や教職課程学生へのコミュニケーション研修なども広く展開している。うりんこ劇場は地域住民にも活用され、子育て支援サークルや英会話教室、自治会の会議など、地域コミュニティの活性化にも貢献。

昭和55（1980）年、名古屋市芸術奨励賞受賞。平成5（1993）年、平成4年度愛知県芸術文化選奨受賞。平成11（1999）年社団法人日本児童演劇協会賞受賞。平成23（2011）年度名古屋市文化振興事業団第27回芸術創造賞受賞。

令和5（2023）年は創立50周年にあたる。こうした長年にわたる活動は当地域の文化芸術の振興に大きな役割を果たしており、その功績は多大である。

令和5年度 名古屋市芸術賞受賞者の略歴

【 芸術奨励賞受賞者 おくむら 奥村 りえ 理恵 (51歳) 音楽 (ピアノ) 】



平成7(1995)年、名古屋市立菊里高等学校音楽科を経て、東京藝術大学へ進学。卒業後は同大学院音楽研究科へ進み、平成11(1999)年、修士課程修了。学部在学中、安宅賞受賞。同大学院においてクロイツァー賞、ドコモ賞受賞。その後、ベルリン芸術大学、同大学院演奏家コース修了。

平成18(2006)年、平成17年度文化庁芸術団体人材育成支援事業・公益社団法人日本演奏連盟主催の『演連コンサートNAGOYA』にてリサイタルを行う。その後もリサイタルや多くのコンサートに出演。ソロ、室内楽、伴奏者として舞台に立つ。

平成21(2009)年、名古屋音楽ペンクラブ賞受賞。NHK-FM名曲リサイタル出演。

平成26(2014)年、室内楽集団 Andiamo 主催によるラヴェル室内楽全曲演奏会第4回にゲスト出演し、その模様が一部放送された。

これまで全日本学生音楽コンクール、アルトール・シュナーベルコンクールなどに入賞。また、東京藝術大学音楽学部管弦楽研究部、“Das Sinfonie Orchester Berlin”、名古屋フィルハーモニー交響楽団とも共演。

また、後進の育成にも取り組んでおり、第11回、第13回日本バッハコンクール in KAKEGAWA にて指導者賞、第31回日本クラシック音楽コンクール全国大会では優秀指導者賞を受賞。多くのコンクールの審査員も務めており、さらなる今後の活躍が期待される。

令和5年度 名古屋市芸術賞受賞者の略歴

【 芸術奨励賞受賞者 ^{よねざわ}米沢 ^{ゆい}唯（36歳） 舞踊（バレエ） 】



平成 18（2006）年、サンノゼバレエ団に入団。平成 22（2010）年にはソリストとして新国立劇場バレエ団に入団。平成 23（2011）年にはビントレー『パゴダの王子』で初主役を務める。平成 25（2013）年にはプリンシパルに昇格。

繊細な動きと表現力に定評があり、バレリーナを目指す子供たちの目標になっている。公演では持ち前のダンス力、表現力で多くの観客を魅了。

古典作品の主役のほか、C. ウィールドン『不思議の国のアリス』アリス（新国立劇場での初演キャスト）、森山開次『竜宮 りゅうぐう』プリンセス亀の姫（初演キャスト）、W. タケット『マクベス』マクベス夫人（初演キャスト）などを踊っている。

平成 16（2004）年、全国舞踊コンクールジュニアの部第 1 位、ヴァルナ国際バレエコンクールジュニア部門第 1 位。平成 17（2005）年、世界バレエ&モダンダンスコンクール第 3 位。平成 29（2017）年、芸術選奨文部科学大臣新人賞、平成 31（2019）年、愛知県芸術文化選奨文化賞、令和 2（2020）年、芸術選奨文部科学大臣賞、橘秋子賞優秀賞。その他いくつもの受賞歴あり。

多くの市民に感動、夢を与え、市民の芸術文化の向上、バレエ界の発展に大きく寄与するなど、さらなる今後の活躍が期待される。

令和5年度 名古屋市芸術賞受賞者の略歴

【 芸術奨励賞受賞者 ^{はしもと}橋本 ^{つかさ}幸（58歳） 伝統芸能（能楽） 】



平成4（1992）年、当時宗家預かりであった故西村欽也師最後の弟子として入門し、平成5（1993）には「花筐」ワキツレにて初舞台。その後、十四世宗家 高安勝久師、飯富雅介師に師事。主に現師匠である飯富雅介師より尾張藩お抱えであった能楽脇方高安流西村家に伝わる芸の指導を受け現在に至る。現在までに「道成寺」「安宅」「鉢木」等の習い物を抜く。

東海地方を中心に関東、関西、広島、九州においても公演を行う。毎年4月に行われる巖島神社桃花祭御神能にも奉納参加。

令和5（2023）年、囃子方以外全て脇方高安流一門にて行った新作能「八尾」では制作段階から加わり地元八尾市民より好評を得た。

令和6（2024）年、師である飯富雅介主催、西村同門会において復曲能「清重」を師、一門と共演する予定。

また、小中学生への普及公演にも参加。名古屋能楽堂小中学生鑑賞会をはじめ、文化庁による「特別巡回公演」でも愛知県のみならず他県の小学校にも赴き子供たちへの能楽普及の一助として活動。

また、稽古場を中区大須に二十数年間構え、地元との繋がりを大切にしつつ芸の研鑽に励む。

令和2（2020）年には重要無形文化財総合指定保持者認定をされており、さらなる活躍が期待される。